



神楽体験

〜上毛町に伝承されている神楽を体験〜

地域づくり活動団体「唐原子供神楽」の宮本さんが、京築地域の神楽「上毛町」にある3つの神楽講（唐原、友枝、成恒）のお話や神楽のはじまり、神楽の歴史、なぜ神楽を舞うのか？などについて、ユーモアを交えながら、わかりやすく教えてくださいました。

そして実際に御先神楽を披露していただきました。

最後に準備していただいた衣装や面を付けてみたり、お囃子を試してみたり、神楽を体験させていただきました。



アンテナショップ販売体験

〜まちの新鮮野菜、美味しい加工品をPR〜

7月31日（木）朝5時30分に起床し、まだ眠たい目を擦りながら、さわやか市大平に出かけました。

さわやか市では、毎週木曜日、町のPRや町内産の野菜や加工品を広く宣伝するため、北九州市小倉北区（魚町銀天街アーケード内）で「さわやか市」のアンテナショップを開いています。

まず、さわやか市の花岡さんから施設の概要や販売されている野菜、加工品について教えていただきました。教えていただく途中、採れたての野菜を抱えた、たくさん生産者の方々が朝早くから出荷される様子を見て驚いていました。そして、子どもたちはアンテナショップに出荷する野菜などを車に詰め込み、北九州に向けて出発しました。8時30分には魚町銀天街に到着し、販売準備に取りかかりました。

そして、いよいよアンテナショップでの販売体験がスタート。子どもたちは各班で担当を分けて販売を行いました。

主な業務は、ごほう茶の試飲、ゆずようかん・柿ようかんの試食の声かけです。商店街中に子どもたちの元気な声が響き渡りました。

子どもたちのがんばりもあり、この日用意していたごほう茶とようかんはすべて完売しました。

3日

上毛の宝を地図にしよう

これまでの3日間で盛りだくさんの体験をしてきました。この間、子どもたちは見たことや聞いたことなどから、それぞれが色々な宝を発見したはずです。その宝を「お宝マップ」という形に仕上げ、発表します。

8月10日（日）、午前中、子どもたちは、これまで体験したこと、まとめ作業をそれぞれ班に分かれて行いました。スタッフが各班のファシリテーターとなって、子どもたちの考えを引き出しながら、グループワークを進めていきました。子どもたちは、協力して、意見や感想などを取りまとめ、「唐原お宝マップ」に仕上げていきました。

午後からは、いよいよ保護者の方々をお招きしての発表会。作成したお宝マップを使って、体験から発見した宝に自身の感想を添えて発表します。

「赤ちゃんからお年寄りまでが利用する月の輪学園では、障がいを持っている人たちが協力して暮らしている。」

「原井地区のサロンは元気があって、いつも笑顔が絶えないサロンで自分も笑顔になった。」

「穴ヶ葉山古墳は、見た目は高そうだったけど、実際に入るととても低かった。」

「郷土料理の『にぐい』を始めてつくった。上毛町のたくさん野菜が入っていておいしかった。」

「にわとりを初めてさばいた。骨がたくくて切るのが難しかった。」

「すみれ会の人たちがつくってくれたカレーやサラダがおいしかった。」

「神楽体験で笛を吹くと音が鳴らなかつたし、神楽の衣装は重かつたので、神楽を舞う人たちはすごいと思った。」

「新鮮な野菜を売るためにみんな朝早くさわやか市にもっていつている。だからさわやか市には新鮮な野菜が安く売られている。」

「アンテナショップで上毛町の商品を売って、都会（北九州市）の人たちの笑顔が見られてうれしかった。」

「アンテナショップでは花も売っていたから、町のキャラクター（チェリー、コスミー）を連れて行って販売すればいいなと思った。」

各班の子どもたちは、みんなで発表の役割を決め、懸命に発表しました。各班の発表が終わるたび、参観者から温かい拍手が贈られました。そして、全ての任務を完了した子どもたちに修了証が授与されました。

これからもさまざまな体験学習プログラムを通じて、「まちの宝」を子どもたちに知ってもらい、地域への愛着を育んでいきたいと考えています。ご協力いただきました皆さん、本当にありがとうございました。

